

世界が進むチカラになる。



中国景気概況(2024年2月)

2024年2月2日

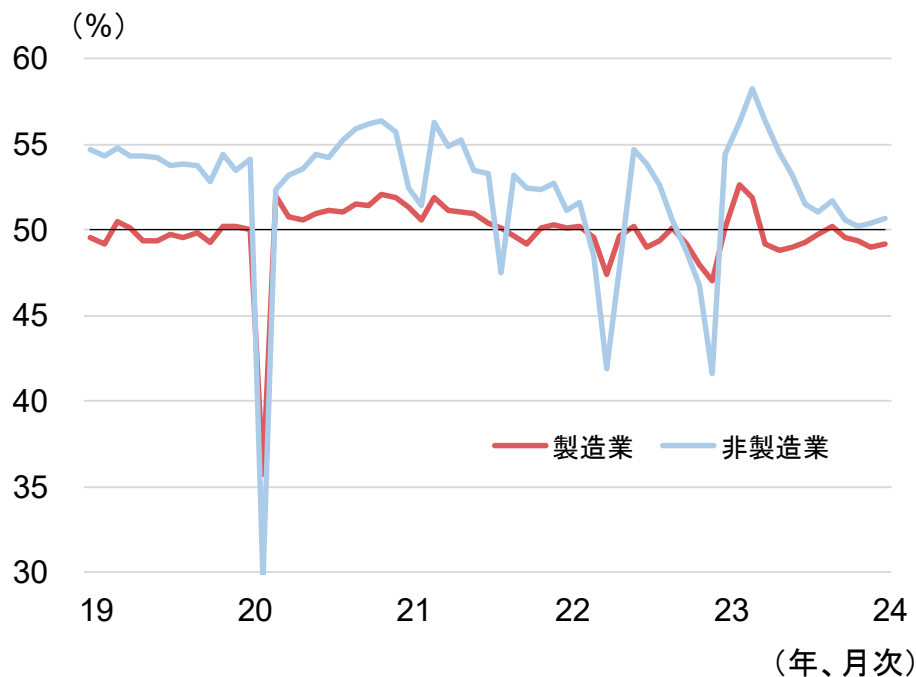
調査部 研究員 丸山健太

景気は減速

中国景気は減速が鮮明となっている。2023年10～12月期の実質GDP成長率は前年比+5.2%と伸び幅は拡大したが、季節調整済み前期比(年率換算値)は+4.1%と低い伸びにとどまった。通年では前年比+5.2%と、政府目標(5%前後)は達成したものの、2年連続でコロナ前(2019年)の伸びに届かなかった。

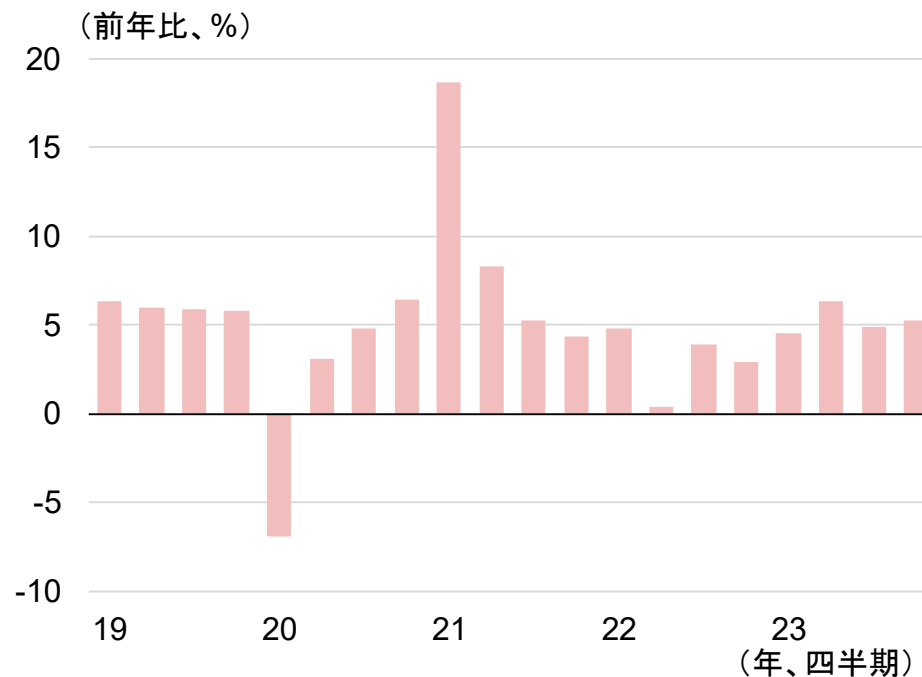
1月のPMIIは、製造業、非製造業とも上昇したが、前者は景況感の境目である50を下回るなど、いずれも低水準が続いた。

PMI



(出所) 国家統計局

実質GDP(四半期)



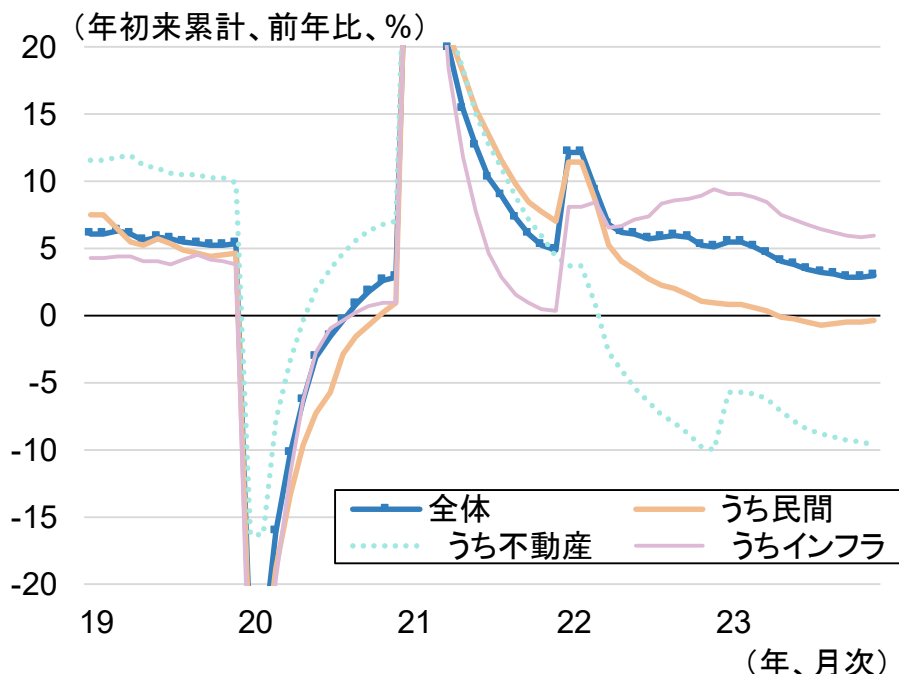
(出所) 国家統計局

固定資産投資、生産ともに増加幅拡大

12月の固定資産投資（年初来累計値）は前年比+3.0%と、2023年で初めて伸びが拡大した。内訳をみると、民間投資や不動産投資で前年比減少が続いた一方、インフラ投資の伸びがわずかに拡大した。

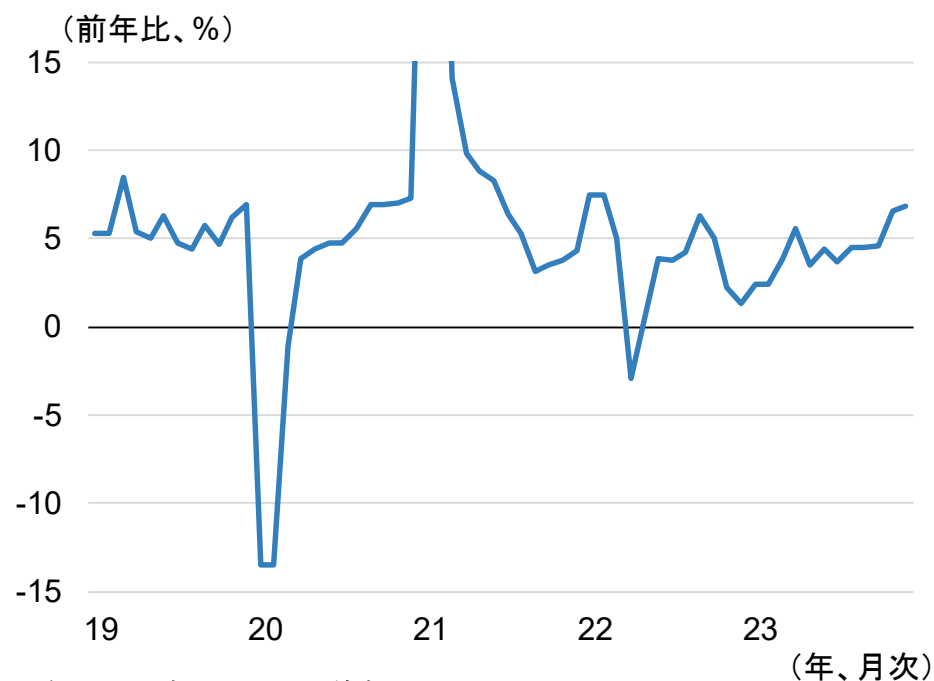
12月の工業生産は、前年比+6.8%と前月から伸びが拡大した。コロナ感染拡大による前年冬場の生産活動停滞の反動を受け、自動車（前年比+24.5%）やスマートフォン（同+29.3%）、集積回路（同+34.0%）などの増加幅が拡大した。

固定資産投資



(注) 2020年1~2月、21年1~3月はグラフの見やすさのためカット
(出所) 国家統計局

工業生産



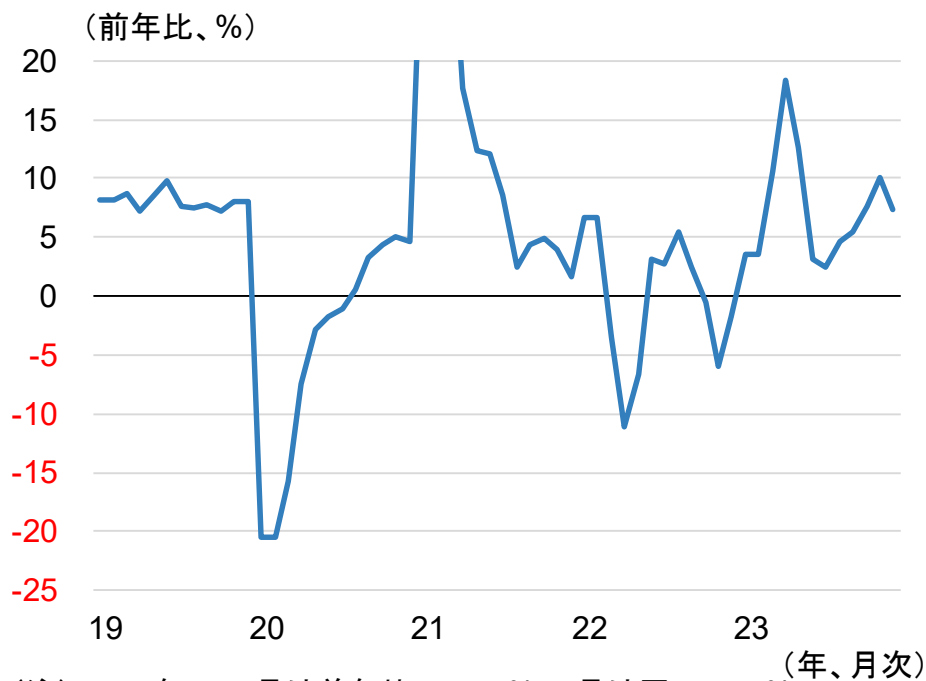
(注) 2021年1~2月は前年比+35.1%
(出所) 国家統計局

消費は弱い動き、物価は下落

12月の小売売上高(名目)は、前年比+7.4%と増加幅は縮小した。建築・リフォーム材料類(前年比-7.5%)や家電・AV機器類(同-0.1%)など、住宅関連消費が前年から減少したほか、コロナ禍が始まって以来、一貫して需要が強かった医薬品類(同-18.0%)が2004年6月以来、約19年ぶりに減少した。

12月の消費者物価は3ヶ月連続で前年比で下落した。豚肉価格や自動車など耐久財価格の下落が物価を押し下げた。

小売売上高(名目)



(注) 2021年1~2月は前年比+34.3%、3月は同+33.0%

(出所) 国家統計局

消費者物価指数

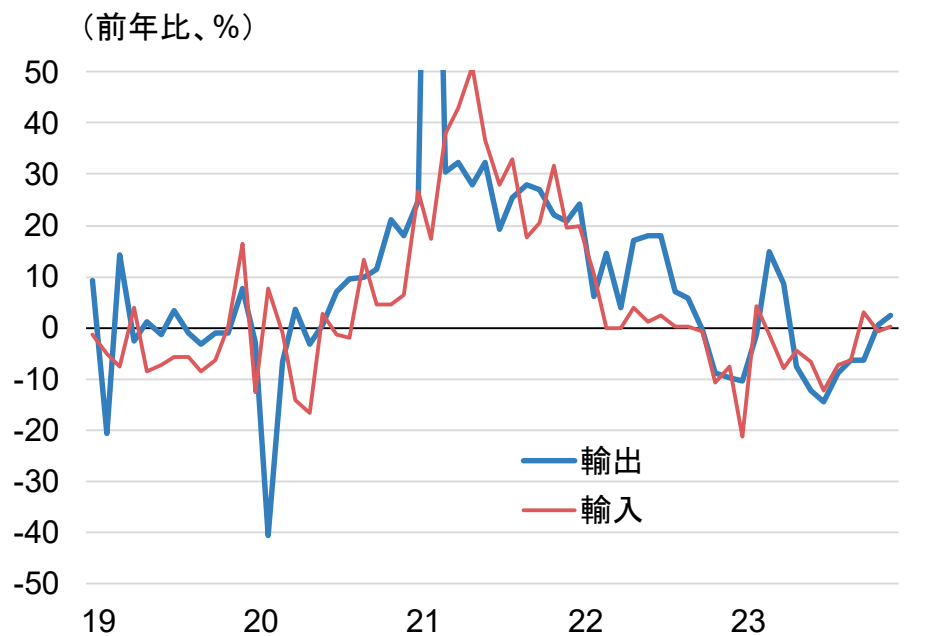


(出所) 国家統計局

輸出、輸入ともに増加

12月の輸出は前年比+2.3%と2ヶ月連続で増加し、輸入は同+0.2%と2ヶ月ぶりに増加した。貿易黒字は753億ドルと、前年同月(780億ドル)からわずかに縮小した。輸出は、米国向けが再び減少に転じるなど、主要輸出相手国・地域向けで減少が続く中、EU向けの減少幅は大きく縮小した。輸入は、原油などエネルギーの減少幅が縮小したほか、半導体製造装置の増加が大きかった。貿易収支は、対米国、対ASEANの黒字縮小、対オーストラリアの赤字拡大が大きかった。

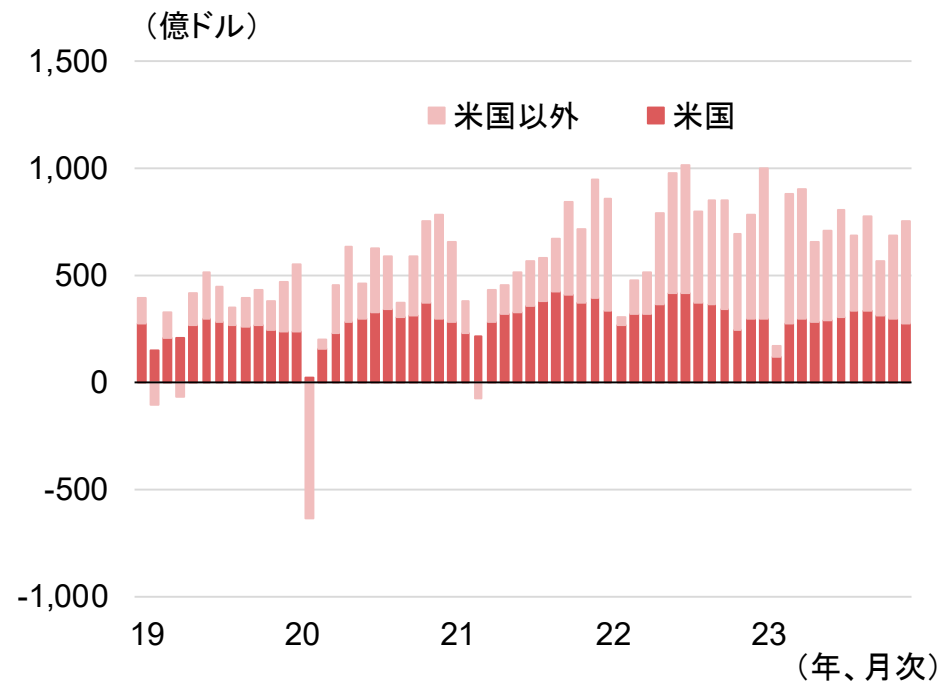
財輸出入



(注) 2021年2月の輸出は前年比+154.9%、21年5月の輸入は同+51.1%

(出所) 海関総署

貿易収支



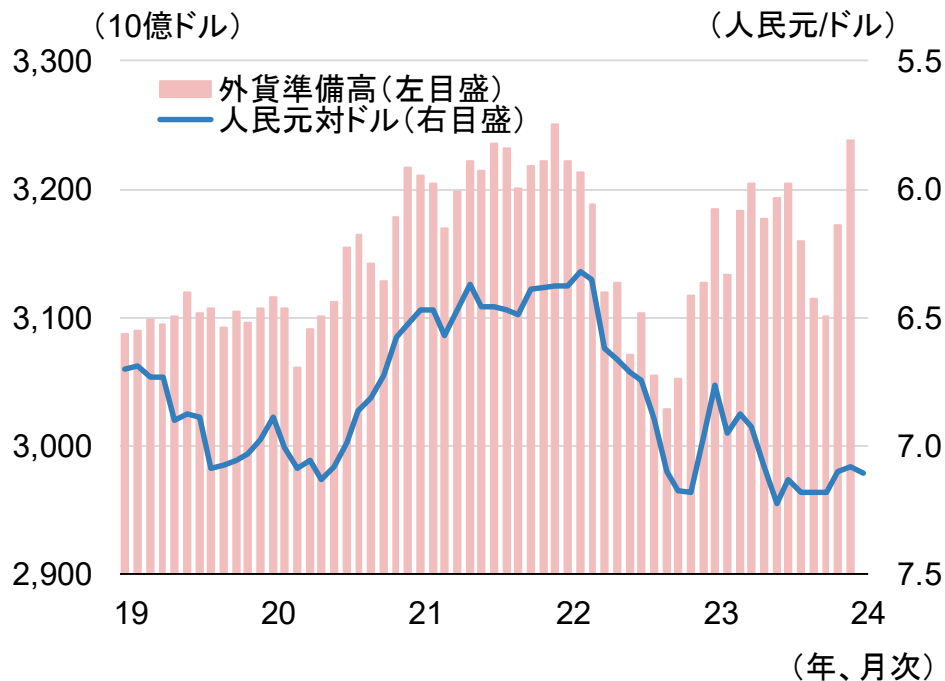
(出所) 海関総署

為替は元高が一服、株価は下落

人民元の対ドルレート(1月末、基準値)は1ドル=7.10元と、景気の先行き不安を背景に元売りが優勢となり、11月中旬以降続いたドル安・元高に一旦の歯止めがかかった。12月末の外貨準備高は、3兆2,380億ドルと2ヶ月連続で増加した。

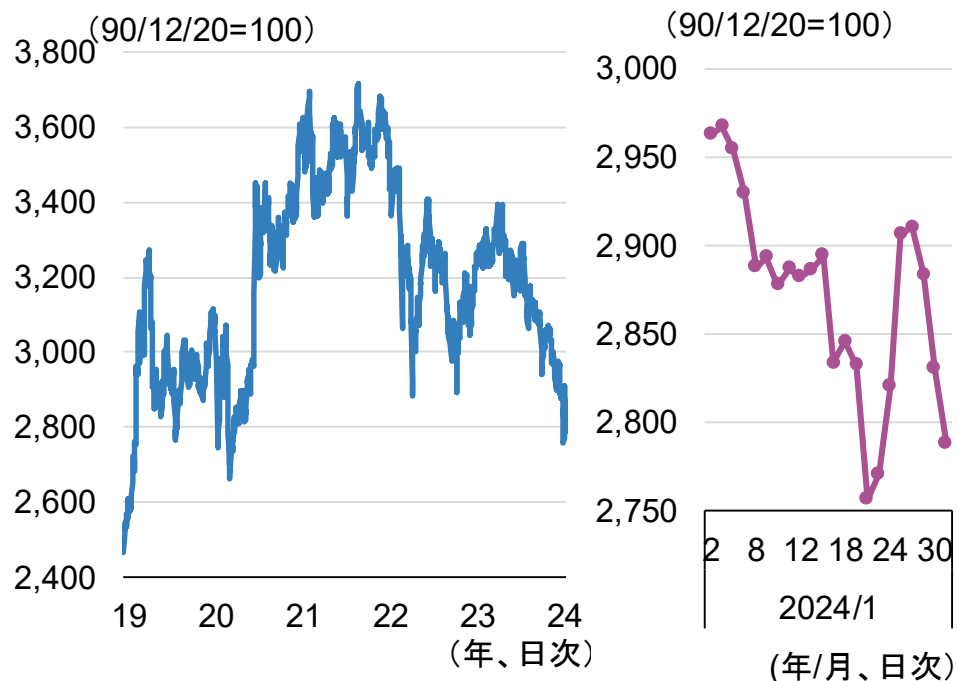
1月の上海総合株価指数は、景気の先行き不安などを背景に下落した。月後半には、政府による空売り制限などの市場安定化策の実施を受け、株価が上昇する局面もあったが、政策効果は一時的で、株価は月末にかけて再度下落した。

外貨準備高



(出所) 中国人民銀行

上海総合株価指数



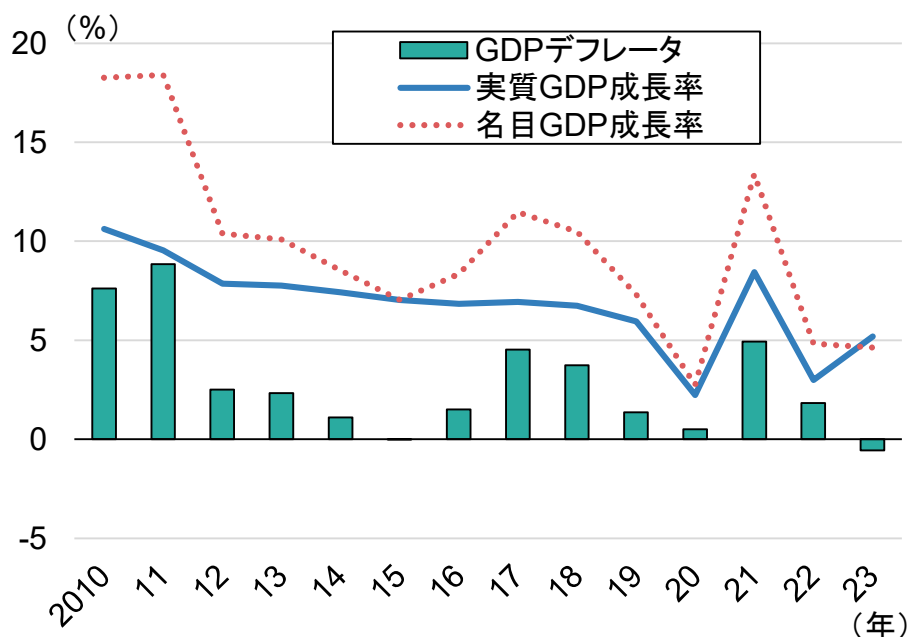
(出所) 上海証券交易所

2023年はGDPデフレーターが8年ぶりにマイナス

2023年の実質GDP成長率は前年比+5.2%と、「5%前後」の政府目標は達成したものの、低い伸びにとどまった。名目GDPは同+4.6%と、8年ぶりに名目の伸びが実質の伸びを下回った。すなわち、経済全体の物価動向を示すGDPデフレーターは前年比-0.6%とマイナスに陥り、CPI(3頁)と合わせ、中国経済のデフレ懸念の高まりを裏付ける結果だった。

GDPデフレーターを業種別にみると、ゼロコロナ政策撤廃後、比較的需要が強かった「運輸・郵便」や「宿泊・飲食」でプラスとなった一方、製造業を含む「工業」のマイナスが大きかった。

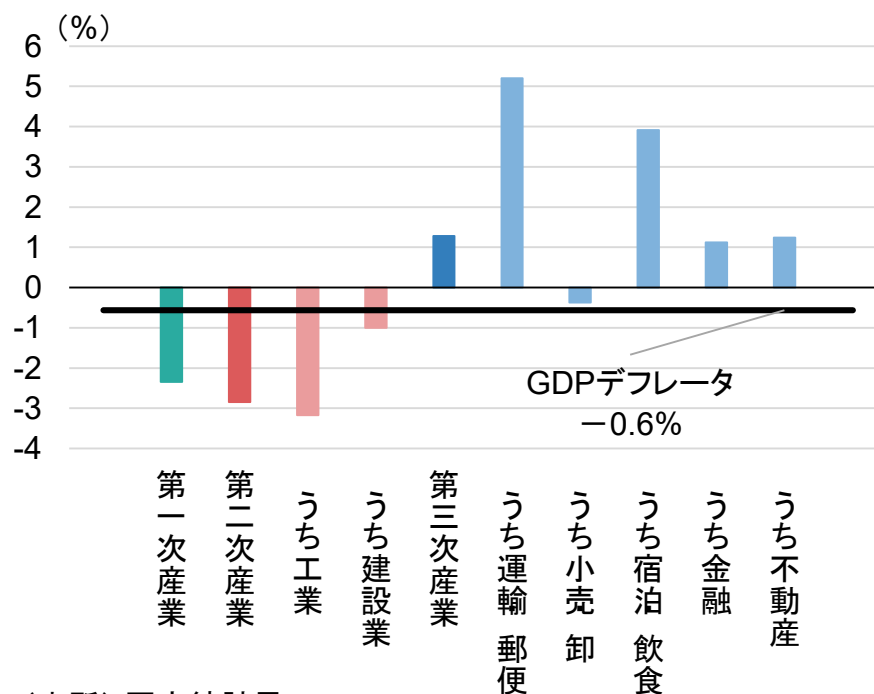
実質／名目GDP成長率とGDPデフレーター



(注) GDPデフレーター=(名目GDP成長率)-(実質GDP成長率)

(出所) 国家統計局

業種別GDPデフレーター(2023年)



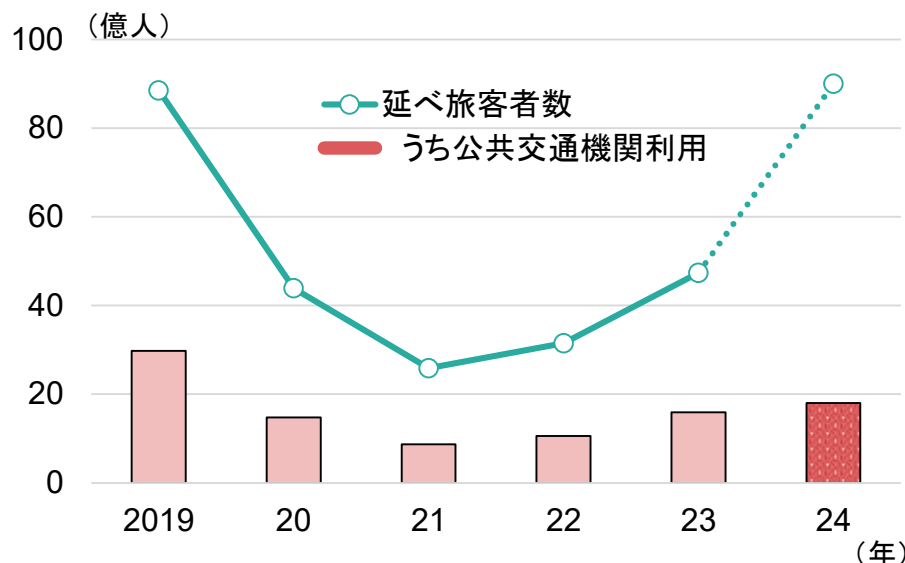
(出所) 国家統計局

今年の春節での人の移動、政府は過去最多を予想

2024年の春節は、2020年以降でコロナ禍の影響を全く受けない初めての春節となり、人の移動の本格回復が期待される。政府は、今年の春節に伴う移動期間(「春運」)での延べ旅客者数は過去最多の90億人に上ると予測している(左図)。

今年は、交通手段に自家用車を選ぶ人が多い。例年、自家用車で移動する人の割合は6割程度だが、今年は足元までで8割が自家用車を選択した(右図)。自家用車での移動費用は相対的に低く、人々の節約志向の高まりを反映していると思われる。春節が消費回復の契機となることが期待されるが、マインド面の弱さが残る中、消費急回復の可能性は低い。

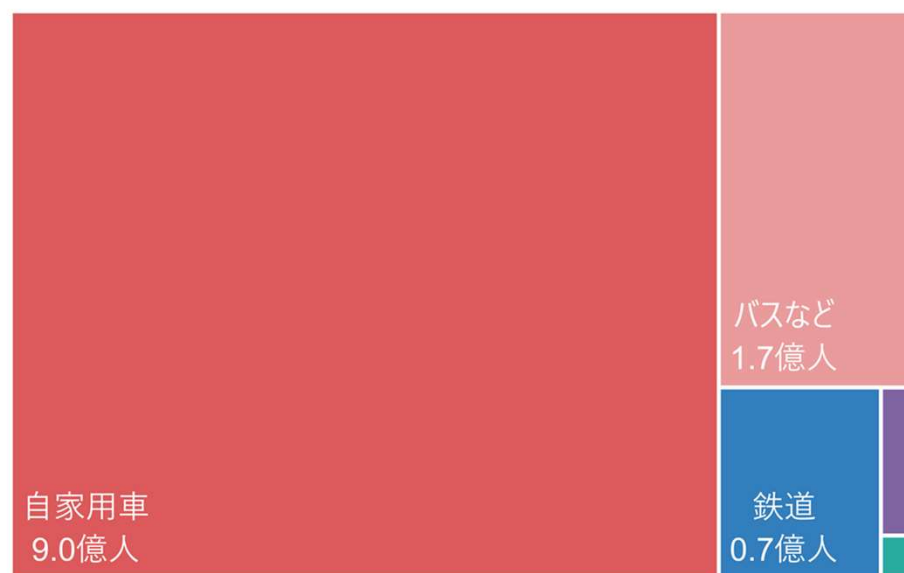
春節に伴う移動期間(40日間)の延べ旅客者数



(注) 2019年、22年の延べ旅客者数は、新華社報道の23年実績と伸びから逆算、20年、21年は公共交通機関利用の伸びを用いて試算。24年は政府による予測

(出所) 国家発展改革委員会、新華社

1月26~31日の交通手段別旅客者数



■ 自家用車 ■ バスなど ■ 鉄道 ■ 飛行機 ■ 船

(出所) 交通運輸部

ご利用に際して

- 本資料は、執筆時点で信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一的な見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客さまの決定、行為、およびその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客さまご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず、出所:三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡ください。

(お問い合わせ)調査部 丸山健太

TEL:03-6733-1630 E-mail:chosa-report@murc.jp

〒105-8501

東京都港区虎ノ門5-11-2 オランダヒルズ森タワー